

## 研究所会員の募集

やどかり研究所では、組織強化と活動の一層の充実を図るため、会員の募集をしています。当研究所に関心をお持ちの皆様は、入会をぜひご検討下さい。

会費 年間 12,000 円（4 月から翌年 3 月までを会計年度としています）

- 特典
1. やどかりの里の機関紙「やどかり」（定価 50 円）を毎月配布します。
  2. やどかり出版の雑誌「響き合う街で」（年 4 回発行、各号定価 1,200 円）をお届けします。
  3. やどかり出版の発行する本を 2 割引きで購入できます。（来店購入に限ります）
  4. 研究所の開催する講座、イベント等に会員価格で参加できます。
  5. 年に 1 回の研究・交流集会を研究成果の発表の場として活用できます。
  6. 雑誌「響き合う街で」に論文を寄稿した場合、優先的に掲載する権利を有します。

## 研究所会員になるには

会員として当研究所をサポートして頂ける方は、右の QR コードからアクセスして申込フォームにご記入した後、年会費の納入をお願いいたします。研究所事務局にて、入会申し込みフォームと年会費納入の確認後、入会申し込み完了のお知らせをいたします。



なお、会計年度は 4 月～翌年 3 月です。会費は年度制ですので、年度途中で退会されても会費はお返しできません。また年度途中でのご入会も割引等は行っておりません。

会員資格は年度ごとに自動更新となります。あらかじめご理解頂きますようお願いいたします。

## 研究所の運営体制

- 代表 松田 正己（生存科学研究所 常務理事）  
三石麻友美（見沼区障害者生活支援センターやどかり 代表）
- 副代表 坂本智代枝（大正大学人間学部 教授）  
大澤 美紀（サポートステーションやどかり 代表）
- 事務局長 増田 一世（やどかり出版 代表）
- 運営委員 相川 章子、木村 千夏、鈴木 裕貴、宗野 政美、永瀬恵美子、東田 全央、  
本多 真希、松原 玲子、結城 俊哉、渡邊 奏子、渡邊 昌浩
- 顧問 丸地 信弘（信州大学医学部 元教授）

## お問い合わせ



〒337-0026  
さいたま市見沼区染谷 1177-4 やどかり情報館  
やどかり研究所 事務局  
TEL.048-680-1891 FAX.048-680-1894  
e-mail: y.kenkyu@yadokarinოსato.org



研究を力に、実践を未来に、運動を希望に。



やどかり研究所

公益社団法人やどかりの里

## ごあいさつ



松田 正己  
共同代表



三石 麻友美  
共同代表

やどかり研究所は、1970年に始まったやどかりの里の歩みとともに誕生しました。

当初は、精神障害のある人への理解を深め、職員の専門性を高めることを目的に、研究活動がスタートしました。

やがて研究は、日々の実践のなかで出てきた課題や、当事者の語りから生まれる問いを出発点として進んでいきます。

実践の記録を丁寧に残すこと、支援のあり方を問い直すこと、制度や社会の仕組みに目を向けること——そうした取り組みの中で、やどかり研究所の視野も、少しずつ広がってきました。

2001年には、精神障害者福祉工場「やどかり情報館」の設立にともない、研究所はその一部門として再出発します。

ここでは、障害のある人自身が経験や思いを社会に発信する機会が広がり、研究所の役割も、当事者の参加と対話を大切にしながら、開かれた実践と学びの場へと変わってまいりました。

やどかり研究所では、当事者・実践者・研究者が共同で代表を務める「共同代表制」を採用しています。専門性や立場にとらわれず、それぞれが一人の参加者として関わり合うことで、日々の対話や実践から、新しい視点や気づきが生まれています。こうした対等で開かれた関係性こそが、やどかり研究所の大きな特徴です。

ここは、専門家のための場ではありません。

支援の現場で感じた違和感をことばにしたい人、ともに考え、社会に問いかけてみたい人、誰かと語り合いたい人。どんな立場の方でも、ここでの対話に加わっていただけます。

私たちの問いかけに、ぜひあなたも加わってください。

やどかり研究所は、現場とともに、地域とともに、精神保健福祉の新たなかたちを、ともに考え、ともに築いていきたいと願っています。



## 研究所の取り組み— 実践・研究・運動の三位一体

やどかり研究所では、精神保健福祉の向上と、よりよい社会の実現をめざして、「実践」「研究」「運動」の三位一体の取り組みを進めています。それぞれの営みがつながり合い、関係し合うなかで、新たな視点や取り組みが生まれています。

### 実践 (Practice) : 支援の現場とともに

やどかり研究所は、現場の実践と深く関わりながら、活動を続けてきました。日々の取り組みのなかで生まれる問いや気づきが、研究や社会への働きかけとなり、さらに運動と響き合うことで、新たな一歩をかたちづくってまいります。

### 研究 (Research) : 声に学び、かたちに

当事者の経験を含む多様な知見に学びながら、調査や研究に取り組んでいます。テーマは、日々の暮らしの営みから、制度や公衆衛生、地域社会のあり方にまで広がっています。得られた気づきは、これからの実践や制度を考えるうえでの手がかりとなります。また、外部研究者による調査にも協力し、実践と研究をつなぐ役割も担っています。

### 運動 (Movement) : ともに声をあげ、社会に働きかける

現場で感じた違和感や小さな声を出発点に、さまざまなかたちで社会に働きかけています。制度や社会のあり方を問い直し、変化を促す行動も、大切な取り組みの1つです。また、研究所ではサロンや学習会を開き、参加者とともに語り合い、学び合う場を育てています。こうした日々の小さな対話の積み重ねこそが、社会を動かす力になると信じています。

## 活動実績

### 1. 助成金等、他の組織から受けた支援の実績

- 1) 大同生命厚生事業団「地域保健福祉研究」2023年度助成、「COVID-19感染拡大時の精神障害のある人や家族、事業所職員への影響と経験知の調査研究」
- 2) ファイザープログラム「心と体のヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援」2019～2021年度助成、「見沼の文化とSDGsを意識した共同創造のソーシャルファームづくり」
- 3) 大同生命厚生事業団「地域保健福祉研究」2019年度助成、「当事者との協働による地域精神保健活動におけるピアサポーター養成と定着のための研究」
- 4) 大同生命厚生事業団「地域保健福祉研究」2011～2012年度助成、「在宅中心の生活を送っている人の実態把握と支援のあり方」
- 5) 三菱財団「社会福祉事業・研究」2008～2009年度助成「家族支援研究」

### 2. やどかりの里状態調査

- 1) 「職員の状態調査」2024年度
- 2) 「メンバーの状態調査」2025年度
- 3) 「家族の状態調査」2025年度

